

## 平成 22 年度第 1 回「健康日本 21 福岡市計画」推進会議議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成 22 年 9 月 29 日（水）15:00～16:30
- 2 開催場所 健康づくりセンター（あいれふ）10 階講堂
- 3 会議次第

1	開 会
2	報 告 健康日本 21 福岡市計画推進会議の所管課の変更について
3	議 題 議題 1 平成 21 年度「健康日本 21」の実績について 議題 2 平成 22 年度「健康日本 21」の計画について 議題 3 各種健診事業について 議題 4 「第 2 次福岡市食育推進計画」の策定について
4	閉 会

- 4 出席委員 健康日本 21 福岡市計画委員 32 名（代理出席を含む。）  
欠席委員：吉田宏会長、上川勝義委員、疋田敏明委員  
御手洗辰治委員、今里滋委員、田中宏暁委員  
井上隆治委員

- 5 報道機関取材者及び傍聴者  
報道機関：無 傍聴者：無

- 6 議事概要  
報告 健康日本 21 福岡市計画推進会議の所管課の変更について  
議題 1 平成 21 年度「健康日本 21」の実績について  
議題 2 平成 22 年度「健康日本 21」の計画について  
(1) 平成 22 年度「健康日本 21」の計画について  
(2) 「ヘルシー・シティ・アプローチ」について  
(3) 本市所管の公共施設における受動喫煙防止対策状況調査の結果について

### （質問・意見）

委員	「ヘルシー・シティ・アプローチ」の重点強化項目の中に「自治協議会や衛生連合会等地域組織と協働し、地域の特性に応じた健康づくり事業の推進」とあるが、具体的にはどのような取り組みか。
事務局	地域においては、それぞれ健康目標を立てていただいている。これからも保健福祉センターと校区との打ち合わせ会議等でデータ

を提供するなどして、行政と地域が協働して、地域にあった健康づくりに取り組んでいく。

- 委員 健康づくりについて、正しい知識を持っている人が少ない。もっと啓発に力をいれるべき。
- 委員 イベントカレンダーのような資料は地域で手に入らなかった。これは地域に配るのか。
- 事務局 各区の保健福祉センターや、市民センター、公民館等で配布する。
- 委員 地域における健康づくりでは、男女共同参画協議会は大きな役割を担っている。「ヘルシー・シティ・アプローチ」の中に明記していただきたい。
- 委員 看護協会も、「まちの保健室」として、健康相談事業等を行っているので、明記していただきたい。
- 事務局 了解した。
- 委員 福岡市が作成した「禁煙・分煙の手引き」では「建物外に喫煙場所を設ける場合、出入口から 20mを目安に離すこと」とされているが、「敷地内は全面禁煙とする」旨の通達を出すなど、もっと積極的に取り組んではどうか。
- 事務局 受動喫煙防止対策は、近年、市民の関心も高く、出入口付近にある喫煙場所についても様々なご意見をいただいている。それぞれの施設で積極的に受動喫煙防止対策に取り組んでいただくよう普及・啓発に努めていく。

### 議題 3 各種健診事業について

- (1) 特定健診・特定保健指導の実施状況について
- (2) 平成 22 年度女性特有のがん検診推進事業について

#### (質問・意見)

- 委員 博多区の南部 6 校区では、今回、10 月を「特定健診受診率向上強化月間」として、衛生連合会を中心に健診受診を呼びかけており、100 名の受診を目標としている。
- 委員 校区での健診は平日はなかなか人が集まらない。対象となる人は仕事を休めない。休日実施を検討してはどうか。

また、献血も同時実施しているが、体重が 50kg 以下の方は受診できないため、もっと幅広く献血をしていただけるよう基準を変更できないか。

事務局 校区健診の休日実施については今後考えていきたい。  
献血の際の体重制限については、基準を定めている日赤へ意見を伝える。

委員 女性特有のがん検診推進事業において、無料クーポン券の配布対象年齢が子宮頸がん検診で 20 歳から 40 歳、乳がん検診で 40 歳から 60 歳と定められているのはなぜか。

事務局 無料クーポン券の配布対象年齢は、それぞれのがんの発症年齢などを考慮して、国において定められている。

委員 特定健診受診率向上のため、受診料を無料にしてはどうか。

委員 受診率向上の取り組みを、もっと地域に任せてはどうか。チラシの作成も、地域が自分たちで知恵を出し合い、自分たちのこととして取り組めば、時間はかかるかもしれないが、成果は出るのではないか。

受診料を無料にするのは、あらゆる手段を講じた後の最後の切り札としてもよいのではないか。

#### 議題 4 「第 2 次福岡市食育推進計画」について

##### (質問・意見)

委員 食育については、これまでの着実に推進しているとの説明であったが、実際の栄養指導の場面では、患者が指示量を守れなかったり、うまくいかないことが多いと感じている。

事務局 本市では福岡市医師会や福岡県栄養士会福岡支部などと共催で「ふくおか市民糖尿病教室」を開催しており、実際に栄養指導が必要な人に向け、啓発を図っている。